

第3回 第4期中海自然再生協議会議事録

日時 平成26年2月22日(土) 13:30～16:00

場所 境港商工会議所3階大会議室

第3回協議会に先だて、恒例となっている協議会の勉強会が以下のように行われた。

- ・ 中海自然再生協議会主催 公開講演会(13:30～15:00)

「海辺つくりの意義 -東京湾でのアマモ場再生活動から学ぶこと-

NPO 法人海辺つくり研究会理事(事務局長) 木村 尚 氏

木村 尚(きむら たかし)氏は、昭和31年生まれ。アマモ場再生など、広く活動を行っていて、全国の沿岸域で進められているアマモ場再生活動で活躍中。主な著書として「森里川海をつなぐ自然再生」(共著)、「ハマの海づくり」(共著)、「海辺の達人になりたい」(共著)、「江戸前の魚喰いねえ 豊饒の海 東京湾」(共著)がある。

東京湾でのアマモ場再生活動を中心に、全国での海辺つくりの現況やアマモ場再生に関わる協働のあり方、そしてアマモ場再生の活動と地域活性化などについてのお話を伺うことができました。(講演会参加者83名)

次いで、協議会では中尾議長の司会のもと、以下のように行われた。

第3回 中海自然再生協議会(15:00～16:00)

議事

- 1) 平成25年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』実施計画について

平成24年3月採択され、平成25年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』にもとづいて事業実施に入った4つの計画について、国井事務局長から5ヶ年計画でスタートした各事業が26年度には折り返し点を迎えるので、進行状況や今後についての考えについての報告を先に行い、討議をしたいとの趣旨が述べられ、各事業の報告を先に行い、討議を行った。

1. 「アマモ場の保全・再生」については、アマモマットの利用で場の拡大を試みてきたが、エイによる食害などで数少ないアマモ場が失われるなどが起こっていることから、植栽のみでなく、アマモが育つような場づくりが重要であることが指摘された。
2. 「海藻類の回収及びその利用」では鳥取島根両県の回収事業が併せて行われていること、4. 「浚渫窪地の環境修復」では中国電力㈱の協力を得て、両事業が順調に進んでいることが報告された。2では海藻類の生育の場である浅場の維持と修復、4では事業効果を見えるようにするために浅場の再生と合わせて進めることの必要性が指摘された。3. 「砂浜の保全・再生事業」では、適地の選定と利用土砂について広く検討を行ってきたが、この協議会ではとくに弓浜半島から米子湾にかけての砂浜の保

全・再生についての米子高専学生グループによる中海圏域の水辺の実態と利用可能性について、環境教育拠点形成からみた発表がなされた。湖岸域の利用の現状を把握したうえで、なぜ砂浜の再生が必要か、再生した砂浜をだれが、どのように使うのかを考えた上で事業を進める必要性ととくに若年層の環境教育の場としての利用という視点が必要であることが指摘された。

2) 第4期次年度(平成26年度)に向けた自由討議

議題1で次年度に向けての討論を含めて行ったので、とくに討議は行わなかった。

報告

1) 中海自然再生事業実施計画(平成24年3月採択)(1.アマモ場の保全・再生、2.海藻類の回収及びその利用、3.砂浜の保全・再生事業、4.浚渫窪地の環境修復)について

議題1と関連が深いことから、議事に先だってそれぞれの事業の報告がなされた。

なお、平成25年度としてはこの協議会で終了となること第3期協議会としては任期が2年であることから、平成26年度に継続されることが事務局長から述べられ、閉会した。

(以上)